

◆国語科◆

全校で取り組んできたこと（H29年度12月調査の分析・検討を受けて）

- ・学習の流れ（めあて黄～ポイント赤）を統一して授業を行う。
- ・1時間の授業の中で、「自分」「ペア」「グループ」「みんなで」タイムを効果的に取り入れる。
- ・授業の終わりに一時間の学習の感想や意見、次の学習の目標を発表する機会を設ける。
- ・「スピーチタイム」では、話型をもとに、理由や根拠を挙げながら話す機会を設ける。
- ・「漢字タイム」では、言葉の意味を考えたり、文字をきちんと見たりする習慣をつける。
- ・「読書タイム」を活用しながら、読書を推進し、落ち着いて本を読むことを習慣化させる。

4月データを分析して気付いた成果と課題

《第5学年について》

成 果	課 題
<p>【国語科全体を通して】</p> <p>○12月調査結果の県平均と比較から「話す・聞く」領域は、大きく上回っていた。</p> <p>○到達度分布では、「話す・聞く」が「おおむね達成」を大きく上回った。「読む」「知識・理解・技能」は「おおむね達成」とほぼ同じであった。</p> <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動において、司会の役割を理解したり、自分の考えを話したりすることが得意である。 (話す・聞く) ・叙述を基に、登場人物の気持ちの移り変わりを捉えることができていた。 (読む) 	<p>【国語科全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語全体の正答率は、県平均を大きく下回り、「おおむね達成」基準とほぼ同じであった。 ●観点別正答率では「書く」は、県平均を大きく下回り、到達度分布でも「要努力」の域にあった。 ●無回答率が、県平均を大きく上回っている。「短答式」「記述式」「活用」に関する問題であった。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を聞くときに、比較しながら聞くことができていない。 (話す・聞く) (分からないことがあったら話の途中でも質問して確かめながら聞くという選択肢を選ぶ児童が多い。) ・四線を使ってローマ字を正しく書き、ローマ字で書かれていることをひらがなで書くことができていない。 (語句の知識) ・漢字を正しく書くことができていない。60%の正答率である。 (漢字の書き) ・問題を読み解くことができていない。(問題の一部分だけで問いを解釈し、答えていると思われる。)(読む) ・目的に応じて、必要な事柄を調べるための計画を立てることができていない。(伝えたい出来事を決める前に「取材をする」を選択している。)(書く) ・文の中における主語を捉える問題の正答率が47%である。 (語句の知識) (手立てとして、まず述語を見つけさせてから主語を見つけさせる。)

《第6学年について》

成 果	課 題
<p>【国語科全体を通して】</p> <p>○国語全体の正答率は、県平均をやや下回る程度に向上した。「おおむね達成」を上回るようになった。</p> <p>○観点別正答率は、昨年度4月調査で県平均を大きく下回る結果だった「話す・聞く」「読む」「書く」が、県平均をやや下回る程度に向上してきた。</p> <p>○到達度分布では、「話す・聞く」が「おおむね達成」を大きく上回り、「読む」「知識・理解・技能」は「おおむね達成」とほぼ同じになった。</p> <p>○無回答率は、昨年度4月調査で県平均を大きく上回っていたが、今年度は県とほぼ同じ程度になり「記述式」「活用」に関する問題の回答率が改善された。</p> <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が伝えたいことについて、相手の知識量や理解状況を確認しながら、目的に沿って話すことができています。(話す・聞く) ・日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことができています。(語句の知識) ・推薦するためには、他のものと比較すると、相手によさが伝わることを捉えている。(話す・聞く) 	<p>【国語科全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語全体の正答率が「おおむね達成」を上回っているが、「十分達成」にはまだ届かないところにある。 ●観点別正答率では「知識・理解・技能」は、県平均を大きく下回り、「要努力」の域にある。 ●到達度分布では、「書く」がもう少しで「おおむね達成」に届くところまでできているが、やや下回った。 ●無回答が多くみられた問題(1問)は、語句に関する知識が必要な「短答式」の問題であった。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文の中における主語と述語との関係に注意して文を正しく書くことができていない。(語句の知識) (主語に合わせて文末表現をかえることができていない。『反省点は、…という点です。』) ・相手や場面に応じた適切な敬語・同音異義語を正しく使うことができていない。(語句の知識) ・複数の話し手のそれぞれの意図を捉え、自分の意見と比べながら、考えをまとめることができていない。(話す・聞く) ・文章全体の構成を捉え、筆者の主張の根拠となる事実を書くことができていない。(書く) ・段落相互の関係を捉えることができていない。(接続語の役割も含めて)(読む)

全校で取り組んでいきたいこと（H30年度4月調査の分析・検討を受けて）

- ・「漢字タイム」「スピーチタイム」の方法と内容の見直しをする。
- ・「漢字タイム」では、言葉の意味を考えたり、文字をきちんと見たりする習慣をつけさせるようする。
- ・「聞く力」を育てるために、国語科以外の教科、集会等でも言語活動を積極的に取り入れ、話し手の考えと自分の考えを比べながらしっかり内容を聞き取る力を育てていく。
- ・「書く力」を高めるために、書き慣れ、書き方の指導を行う。(テーマや文字数指定、条件付き作文など)
- ・語句の知識が高まるように文法や語句などプリントを準備し、宿題として取り組ませる。
- ・「読書タイム」を活用しながら、読書を推進し、多様なジャンルの本を読ませる。

◆算数科◆

全校で取り組んできたこと（H29年度12月調査の分析・検討を受けて）

- ・前学年の学習内容を想起させるために、授業で問題を取り上げたり、宿題で補充をしたりする。
- ・かけ算やわり算、あまりの処理等のミスを減らすように、類似問題を作成して繰り返し計算させる。
- ・問題を正しく把握するために、問題文の数字や問われている部分に印を入れながら読む習慣をつけさせながら、重要なキーワードを確認する。
- ・線分図や数直線などに表したり、図形に角度や辺の長さなどを書き込んだりすることで、解き方や考え方を明らかにする。

4月データを分析して気付いた成果と課題

《第5学年について》

成 果	課 題
<p>【算数科全体を通して】</p> <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小数第2位の小数の加法の計算、同分母の分数の減法の計は「十分達成の基準」を上回り、正しく計算することができる。（数と計算） ・長方形の面積の公式を理解し、面積の縦の長さから、横の長さを求めることは「十分達成」の基準を上回ってできている。（数量関係） ・立方体の展開図の理解は「十分達成」の基準を上回りよく理解できている。（図形） ・分度器を用いて角の大きさを求めることは「十分達成」の基準を上回っている。（量と測定） ・資料（二次元表）に表されている数値を読み取ることは十分達成の基準を上回っている。（数量関係） 	<p>【算数科全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●算数全体の正答率は県平均から大きく下回っている。 ●無回答率は、県平均からやや下回っている。 ●領域別で見ると、「数と計算」「量と測定」は大きく下回っている。 ●観点別では、「考え方」「知識・理解」が県平均より大きく下回っている。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗数が2位数で被除数が小数第2位の小数の乗法の計算が「おおむね達成」の基準を下回っておりできていない。（数と計算） ・整数の除法で、商、除数、余りの大きさの関係の理解ができていない。無回答率が多い。（数と計算） ・四捨五入して上から2桁の概数で表すことが「おおむね達成」の基準を下回っておりできていない。（数と計算） ・面積についての感覚を身に付けることについては、「おおむね達成」の基準を下回っておりできていない。（量と測定） ・垂直な二つの直線の関係については「おおむね達成」の基準を下回っておりできていない。（図形） ・示された情報や条件、説明を基に、調べたり、求め方を説明したり、考えたりすること（大問4、大問10、大問12）は、ともに「おおむね達成」の基準を下回っておりできていない。（数と計算）（量と測定）（図形）（数量関係）

《第6学年について》

成 果	課 題
<p>【算数科全体を通して】</p> <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十進位取り記数法で表された数の大小についてはおおむね達成できている。(数と計算) ・一直線になったときの角の大きさは、180度であることを十分理解している。(知識・理解) ・示された表現方法を基に、空間にある物の位置を表現することがおおむね達成できている。(横○つ目、縦○つ目、高さ○つ目) (技能) 	<p>【算数科全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●算数全体の正答率は県平均から大きく下回っている。 ●無回答率は、県平均からやや下回っている。 ●評価の観点では、「考え方」「技能」「知識・理解」が県平均より大きく下回っている。 ●領域別では、どの領域も大きく下回っている。 ●特に「活用」に関する問題や考え方を問う記述式の問題形式において県平均を大きく下回り、課題がある。到達度分布も「要努力」の域にある。 ●12月調査では、「技能」は県平均とほぼ同じ、結果を残したが、今回も昨年度の4月調査と同様、学習した内容が児童にしっかり定着していないことが分かった。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフを関連付けて読み取ることができていない。(考え方) (数と計算) ・示された情報を解釈し、条件を変更した場合について考察した数量の関係を、言葉と数を用いて記述することができていない。(考え方) (数と計算) ・いくつかの数量を関連付け、根拠を明確にして式や言葉を用いて記述することができていない。(考え方) (数と計算) (数量関係) ・示された考え方を解釈し、50秒、60秒の場合に適用して、その結果を表に整理することで条件に合う時間を判断することができていない。(考え方) (数と計算) (量と測定) (数量関係)

全校で取り組んでいきたいこと（H30年度4月調査の分析・検討を受けて）

- ・説明の仕方のモデルを提示して、反復して話すことで説明の定着を図る。
- ・問題を正しく把握するために、問題文の数字や問われている部分に印を入れながら読む習慣をつけさせながら、重要なキーワードを確認することを徹底し、立式につなげる。
- ・線分図や数直線などに表したり、図形に角度や辺の長さなどを書き込んだりすることで、解き方や考え方を明らかにする。
- ・算数的活動（具体物の計算や操作など）を意識して取り入れ、児童の学習の理解を深める。
- ・「すくすくタイム」（5・6年）と家庭学習を連動させ、「活用」に関する問題への指導を行っていく。
- ・児童の実態に応じた宿題の出し方を検討する。(家庭との連携、宿題の量・内容などの検討)

◆理科◆

全校で取り組んできたこと（H29年度12月調査の分析・検討を受けて）

- 学習課題、考察を明確に示す。
- 具体的操作を伴った実験を行う。

4月データを分析して気付いた成果と課題

《第6学年について》

成 果	課 題
<p>【理科全体を通して】</p> <p>○理科全体の正答率は、「おおむね達成」基準とほぼ同じである。</p> <p>○到達度分布では、「知識・理解」「技能」が「おおむね達成」基準を大きく上回った。</p> <p>○クロス集計を見ると、授業の一つ一つの流れをきちんと理解しようとする意識が全体的に高い。</p> <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none">・安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を考えることができている。 (選択式の「活用」に関する問題)・乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用することができる。 (思考・表現)・より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することができる。 (思考・表現)	<p>【理科全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none">●理科全体の正答率は、県平均を大きく下回った。●観点別正答率では「思考・表現」「技能」「知識・理解」は、県平均を大きく下回っている。●到達度分布では、「思考・表現」は「要努力」の域にある。●クロス集計から、「理科が生活に必要と思わない」児童が多い。そのため、普段の生活と理科を結び付けることができていると考えられる。 <p>【設問別の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none">・土地の浸食や体積作用の学習内容では、結果を見通して実験を構想したり、言葉や概念を理解したりすることができていない。(知識・理解、思考・表現)・複数の情報を関係付けながら分析して考察することができていない。何を問われているのか理解できていないようである。(選択式の「活用」に関する問題)・思考・表現については、書かせるだけでなく、どう表現したのか、問いにあっているのかなどをきちんと評価することも重要である。(記述式)

全校で取り組んできいきたいこと（H30年度4月調査の分析・検討を受けて）

- ・学習課題、予想、実験の流れを定着し、実験結果の見通しを持たせて取り組ませることで、論理的思考ができるようにする。
- ・複数の情報を図や表にまとめることで、関係性を明らかにし、考察ができるようにする。
- ・実験材料を身近な物にすることで、児童の生活と結び付けて考えることができるようにする。

◆意識◆

全校で取り組んできたこと（H29年度12月調査の分析・検討を受けて）

- ・「家庭学習の手引き」を児童、保護者に配布し、宿題の意義・方法・効果などを伝えてきた。

- ・食事の大切さが分かり、自分の健康に関心がもてるように指導を行い、「早寝・早起き・朝ごはん」を実践し、生活のリズムを整えることができるように、家庭教育指針週間を設け「ふりかえり表」を準備してきた。
- ・「あしの子タイム」(生活科・総合的な学習の時間など)で、地域の生活や文化について理解と愛着をもち、地域を創るために主体的に取り組んでいく態度と能力を育てるとともに、自己の生き方を考えることができる学習活動を行ってきた。

4月データを分析して気付いた成果と課題

《第5学年について》

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことの(算・理)の有能性を感じている。 ・平日の平均学習時間が60分を超える児童が多い。 ・計画を立てて勉強している児童が多い。 ・宿題をきちんとやっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算・理の授業や勉強が好きかつ良く分かれると答えた児童が少ない。 ・算数で公式・きまりを使う理由がわかってない児童が多い。 ・家庭学習を多くしている子とまったくしていない子の差が大きい。 ・家庭学習の時間が長いからといって正答率が高いというわけではなかった。 ・家族と過ごす時間の数値が県平均より低い。 ・学習塾に通っている児童は多いが学習塾で苦手克服に充てられる時間がほとんどない。

《第6学年について》

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・宿題をしている児童が多く、予習復習もできている。 ・自分で計画を立てて、勉強している児童が多い。 ・学習は大切と思っている児童が多い。 ・人の役に立つ人間になりたいと思う児童が、県平均より多い。 ・話し合い活動で、考え方を深め広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、朝食を食べている児童が県の平均より少ない。 ・朝食を食べていない児童は、学習の理解が低い。 ・学校での出来事を家の人に話さない児童が多い。 ・学習が将来に役立つ意識は低い。 ・学習時間に対して問題の正答率に反映されていない。 ・活用問題に課題がある。(書く活動) ・自分の考えを説明したり、発表したりすることを苦手になっている。 ・複数の意見の中から選んで自分の考えを述べる経験がほとんどない。

全校で取り組みたいこと(H30年度4月調査の分析・検討を受けて)

- ・児童の家庭生活の状況を踏まえ、実態に応じた家庭学習の出し方(質・量など)を小学部会で話し合う。
- ・集会や異学年交流などを行い、複数の意見を聞いて感想を述べる場を設け、経験を増やして自信をもたせる。
- ・児童数が減り、1クラスの学年が増えたことで、教師の人数が減っている。学校全体としてこれまで指導してきたスキルタイムや「あしかり学」等の内容や方法の見直しが必要。